

専念寺通信

12月号 (NO. 172) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

今年も一年の最後の月、師走がやってまいりました。今年は何年にもないほどの台風被害、火山の噴火、また地震があった、全体としてきびしい一年となりました。皆さま、おかわりなくお過ごしでしょうか。「通信」12月号をお届けします。

☆12月14日に総選挙が行われます。いま、「通信」を書いている1日には、まだ、その結果は分かりません。私共は「何党」でもなく、また「何々主義」でもありません。仏教者として、また一信仰者として、もしも名づけるのなら「非戦主義」でしょうか。法然上人の父の遺言を、今まで何度かご紹介してきました。法然の父は「復讐はやめよ。」と言い遺したのです。人間は自分のこうむった被害をなかなか忘れることができません。他人に対して行なった(かもしれない)ひどい言葉や態度はけろりと忘れてしまう人も、されたことは長く忘れない、ということがあります。人間の心の中の悲しみや憎しみ、喜びや感激、のような様々な感情をコントロールするのは難しいことです。大切な人を失ったあと、その人を「忘れる」のではなく、心の中のどこかにそっと大切に保管し、それから前を見て生きる、ことを以前にお伝えしました。同様に、憎しみも忘れられないなら仕方がない、けれどいつもその感情に支配され続けるのではなく、心の中に保管し、前を向くことは可能です。自分の心は自分の一部なので。ほかの人にコントロールされるのを防ぐことはできます。私たちの持

っている様々な感情をそのまま大きな「政治」や「経済」になげうってしまうのは、もしかすると危険です。感情の脇に必ず「ちょっと待て。そう急ぐな。焦るな。」とたしなめる「理性」と呼ばれるものも私たちは持っています。ほかにも長く生きた人には「経験」や「常識」も。これらをみんな使えば、大きな出来事に立ち向かうときに道をあやまることを避けられます。あふれるばかりの情報や、大きな声で繰り返される立派な言葉、それを見聞きしたあと、自分でちょっと考えましょう。自分の中にある「経験」や「常識」、そしてまっとうな心の持ち様、とでもいべきものをプラスして。私たちは、人を殺すために生まれてきたのではありません。人を出しぬき、踏みつけにするために生かされているのではありません。弱い立場にいる人は、あしたの私たちです。あしたの私たちの子供です。生きることは、時に「不平等」の連続のように思われます。これを恨むのではなく、自分のまわりだけでも、少しずつ薄めてやわらげていくことはできるのでしょうか。私たちの持っているどちらかと言えば「良くない」感情(誰でも持っています)をさらに悪い方向へ走らせるのを止めましょう。私共は戦争に反対です。20年近く続けて発行している「通信」に何度も書いたように。私たちの国は終戦後70年近くにわたって一度も戦争に参加せず、一度も戦場で人を殺していません。これは世界に誇れることです。日本人は勤勉で我慢強く正直です。礼儀正しく謙虚です。私たちは自身の美点を忘れず、そして自身の心を善き方へと持っていこうではありませんか。こつこつとあきらめずに善き方へと。

皆さま、お身体を大切に良いお年をお迎え下さい。(ぎんなんのお守りを大玄関でお渡ししています!)

平成26年12月1日
大黒

